

地域の宝を守る生徒中心の美化活動と保全作業が自己肯定感を磨く

農林水産大臣賞 新潟県 上越市立春日中学校

上杉謙信の居城として知られ、日本 100 名城にも数えられる春日山城。その歴史的な史跡を校区に持つ同校の生徒は、春日山を舞台に毎年開催される謙信公祭において、2008 年頃から生徒がごみを回収分別する活動「おもてなしゴミ回収隊」に取り組んでいる。当初は、祭りの終了後に行っていたが、春日山を整備する団体や、地域をよくしたいと願う住民などの思いに触れて、ごみのない会場で快適に楽しんでもらおうと、祭り当日にごみ袋を持って回収を呼びかける活動に改めた。

並行して、春日山城跡に点在する本丸跡や天守台跡の保全「土の一袋運動」にも携わる。主に、風雨にさらされて土が削られた部分を修復するために、土の入った袋をリレー方式で運び、土を補充し踏み固める地道な作業だ。また、春日山には欠かせない松林の松の根がむき出しになった箇所は、芝を張って杭で固定したり、枯れた松の跡には補植したりと、地域団体の指導のもと積極的に取り組む。

こうした保全活動は以前、大人から依頼を受けた生徒がボランティアとして参加していたが、やらされている感覚が強かった。しかし生徒会主導に切り替えた 2014 年頃から、春日山は自分たちが守るという意識が芽生え、生徒自ら企画し推進する活動へと好転。その結果、今年度の清掃活動には、全校生徒の約 8 割が参加し、住民よりも生徒の参加者の方が上回った。

春日山城跡保存整備促進協議会長の小山正明さんは、「かつては不法投棄も見られた春日山ですが、今はごみが激減しています。中学生が先頭に立って、地域の宝を守っていることは住民として誇らしい」と笑顔を見せる。

現在、生徒が企画提案に関わる謙信公祭は、のぼり旗の設置、ポスターやうちわの制作、狼煙上げ準備、演武披露など多岐に渡り、一人ひとりができることに率先して取り組む。生徒主体の清掃活動で育まれた自己肯定感が、地域全体を盛り上げる大きな原動力になっている。



新潟県上越市立春日（かすが）中学校

学校長：澤田 靖（さわだ やすし）

生徒数：533 名（2018 年 11 月末現在）

住所：新潟県上越市春日野 1 丁目 9-3

電話：025-522-4811

アクセス：えちごトキめき鉄道「春日山」駅より徒歩数分

写真上：「おもてなしゴミ回収隊」の活動、上から 2 番目左：土の一袋運動に励む生徒、右：枯れた松の木の跡に補植する作業、上から 3 番目：謙信公祭の実行委員会で企画提案する生徒、下：謙信公祭では大勢の観客を前に演武を披露